



Nissan Chemical
CORPORATION

未来のための、はじめてをつくる。

個人投資家の皆様へ 日産化学（株）(証券コード:4021) 会社説明会資料

説明者 日産化学(株)
取締役常務執行役員 CFO
大門秀樹

2022年12月17日

**Institutional
Investor**
2022 JAPAN EXECUTIVE TEAM
MOST HONORED COMPANY
NISSAN CHEMICAL CORP.



Contents

01	沿革・会社概要	P3
02	当社の特徴	P6
03	主要セグメント概況	P14
04	長・中期経営計画	P31
05	ESGトピックス	P37
06	参考資料	P45

1887

東京人造肥料会社設立

1937

日産化学工業株式会社に改称

1965

石油化学事業へ進出

1988

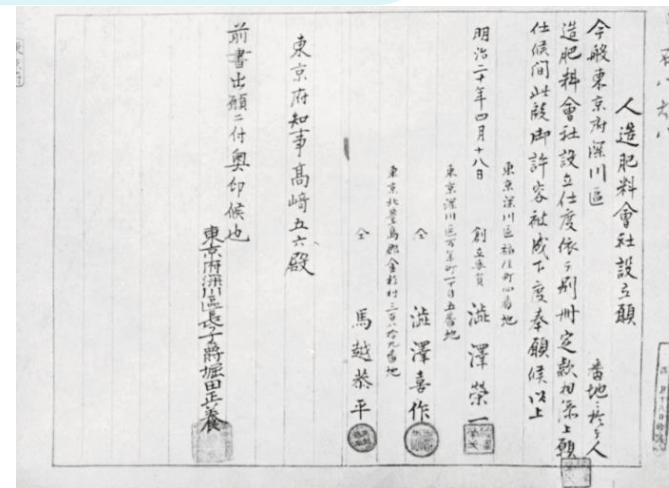
石油化学事業から撤退

1989

事業構造の転換

2018

日産化学株式会社に名称を変更

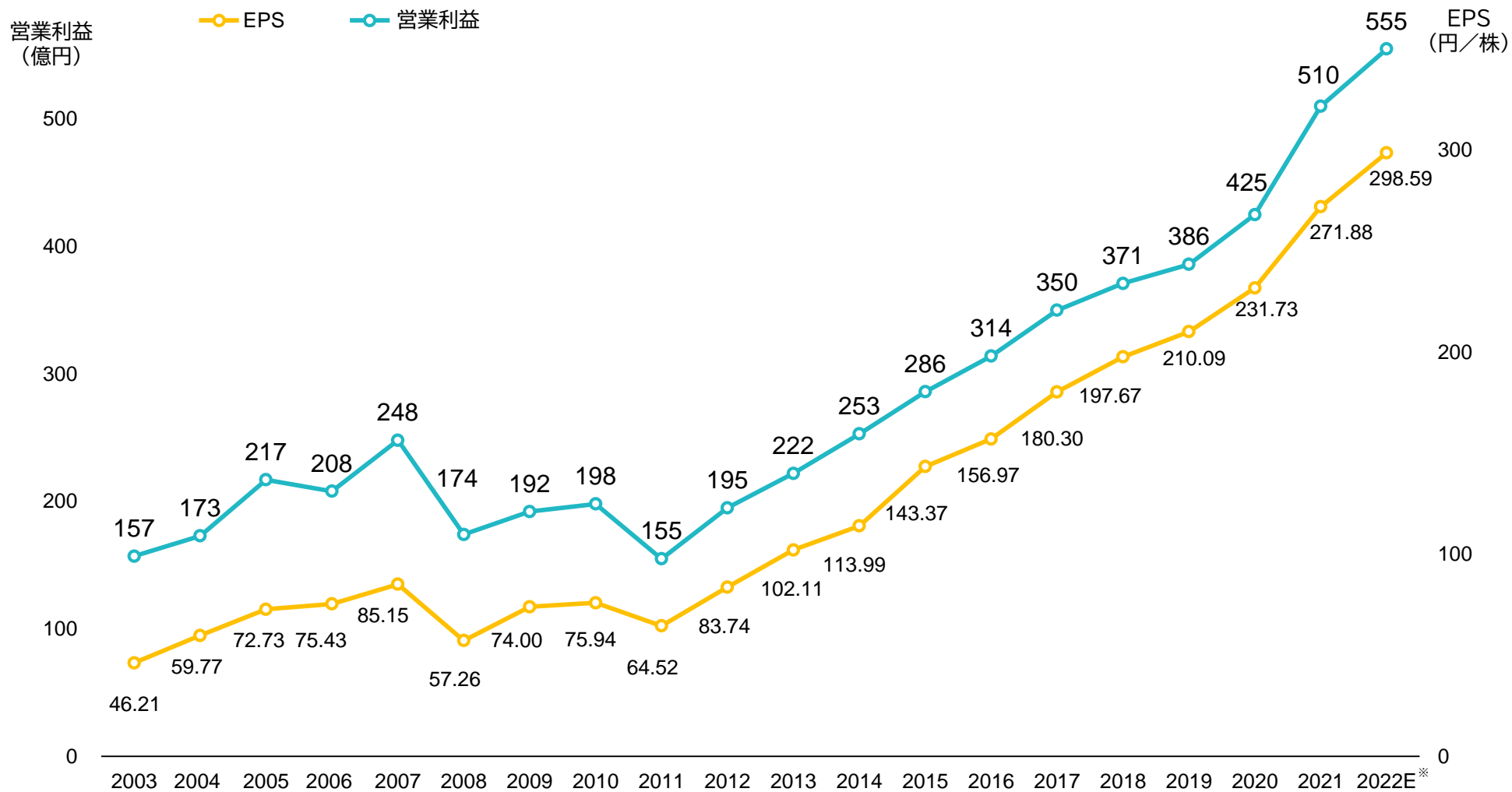


遊澤栄一

高峰讓吉

1. 普通株式/資本金：141百万株/18,942百万円（2022年12月現在） 東証プライム市場上場
2. 従業員数：連結2,737人 単体1,929人（2022年3月現在）
3. 主な事業内容：(1)機能性材料事業（ディスプレイ材料、半導体材料、無機コロイド等）
(2)農業化学品事業（農薬、動物用医薬品等）
(3)化学品事業（アンモニア・硫酸系基礎化学品、ファインケミカル等）
(4)ヘルスケア事業（自社創薬、原薬・中間体製造/プロセス研究/GE原薬供給等）

■ 2012年度以降、営業利益、EPSは一貫して上昇



※ 2022年11月発表

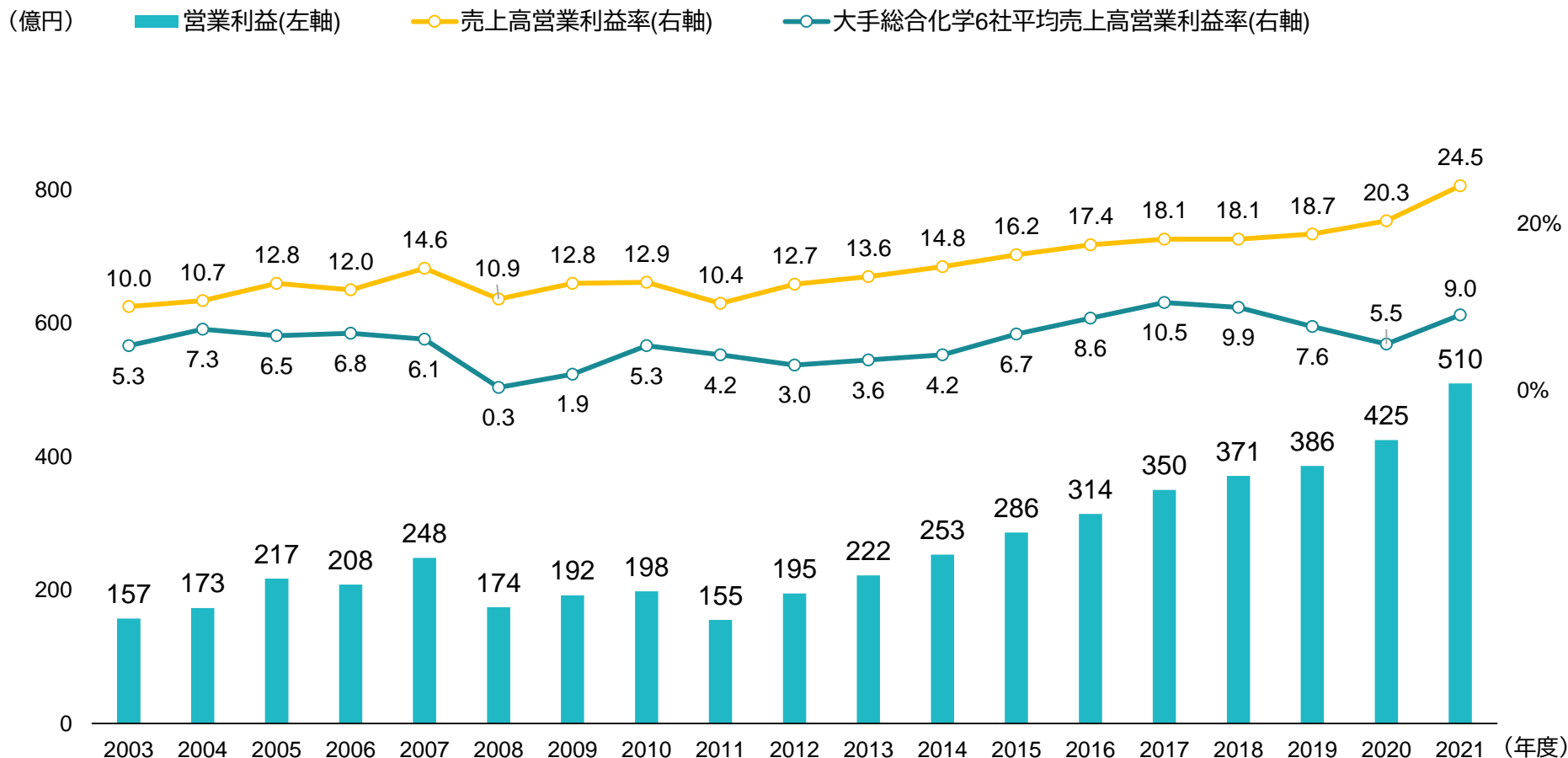
■ 営業利益・経常利益は9年連続、純利益は10年連続、過去最高益を更新予定

(億円)

	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022 (予想)
売上高	1,559	1,614	1,691	1,744	1,692	1,602	1,490	1,542	1,486	1,538	1,637	1,712	1,769	1,803	1,934	2,049	2,068	2,091	2,080	2,342
営業利益	157	173	217	208	248	174	192	198	155	195	222	253	286	314	350	371	386	425	510	555
経常利益	146	174	213	212	244	169	192	194	159	205	237	264	295	317	362	391	400	439	537	583
純利益	87	113	137	140	155	101	128	130	110	139	167	182	224	240	271	294	308	335	388	421
売上高営業利益率	10.0%	10.7%	12.8%	12.0%	14.6%	10.9%	12.8%	12.9%	10.4%	12.7%	13.6%	14.8%	16.2%	17.4%	18.1%	18.1%	18.7%	20.3%	24.5%	23.7%
ROE	13.4%	15.2%	16.1%	14.7%	15.6%	10.3%	12.6%	11.9%	9.5%	11.4%	12.7%	12.7%	14.6%	15.1%	16.1%	16.6%	16.9%	17.5%	19.2%	19.7%
EPS(円/株)	46.21	59.77	72.73	75.43	85.15	57.26	74.00	75.94	64.52	83.74	102.11	113.99	143.37	156.97	180.30	197.67	210.09	231.73	271.88	298.59
配当(円/株)	11	11	15	20	20	22	24	24	24	26	30	36	44	52	68	82	90	104	122	164
配当性向	23.8%	18.4%	20.6%	26.5%	23.5%	38.4%	32.4%	31.6%	37.2%	31.0%	29.4%	31.6%	30.7%	33.1%	37.7%	41.5%	42.8%	44.9%	44.9%	54.9%
総資産	1,726	1,694	1,832	1,773	1,727	1,723	1,814	1,834	1,901	1,992	2,080	2,239	2,282	2,317	2,460	2,470	2,495	2,655	2,797	-
純資産	704	800	936	993	1,012	968	1,077	1,124	1,196	1,267	1,378	1,513	1,569	1,637	1,764	1,821	1,855	2,006	2,080	-
自己資本比率	40.1%	46.4%	50.2%	55.3%	58.0%	55.5%	58.7%	60.7%	62.4%	63.0%	65.7%	66.9%	68.1%	69.9%	71.0%	73.0%	73.7%	74.9%	73.6%	-
R&D	87	86	92	99	125	137	131	126	136	137	142	150	158	161	172	178	172	165	160	168
同 売上高比率	5.6%	5.3%	5.4%	5.7%	7.4%	8.6%	8.8%	8.2%	9.2%	8.9%	8.7%	8.7%	8.9%	8.9%	8.9%	8.7%	8.3%	7.9%	7.7%	7.2%

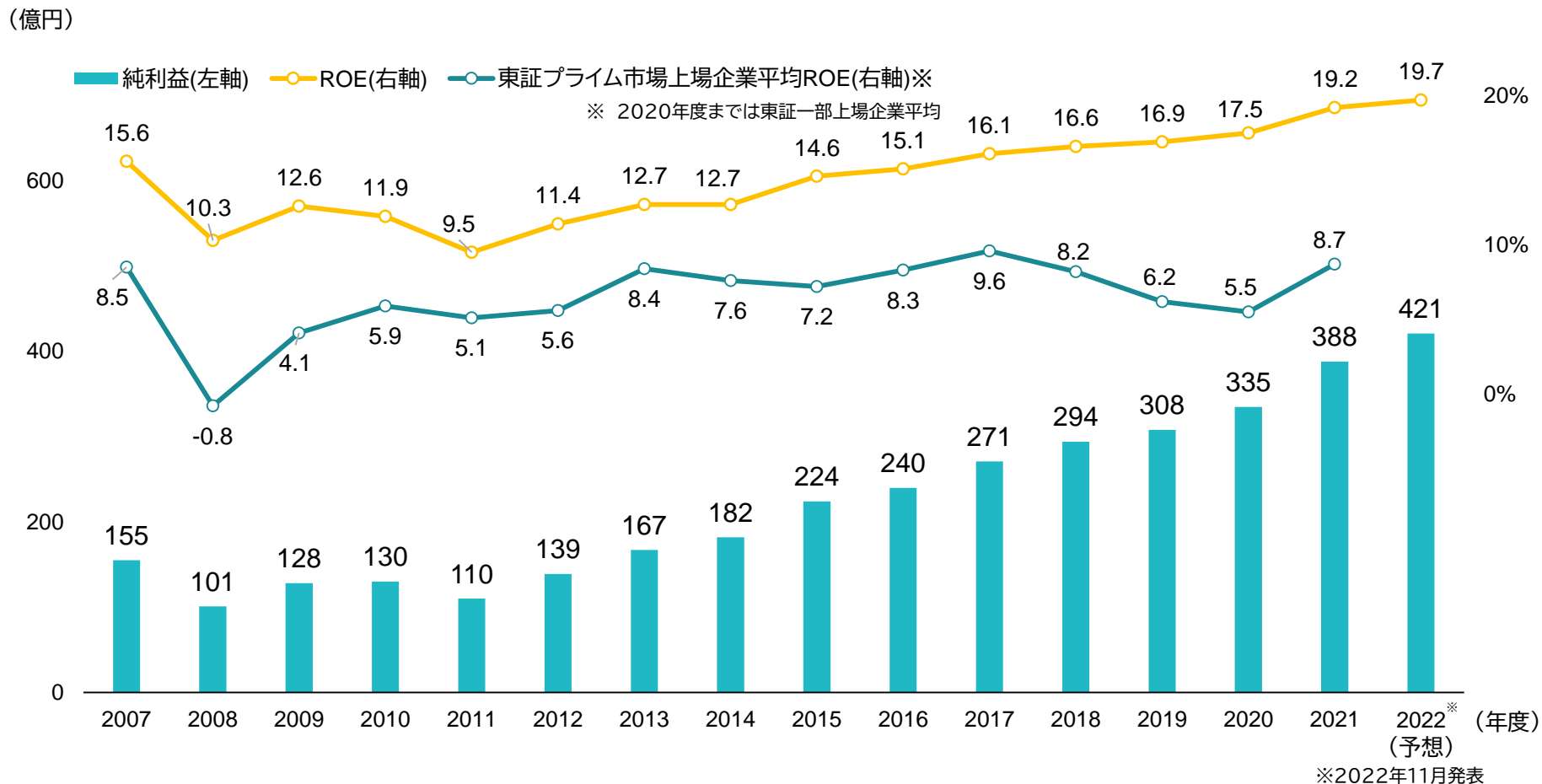
※ 2021- :会計方針の変更影響を含む
 ※ 2022(予想):2022年11月発表

- 景気変動の影響を受けやすい化学業界にあって、長期にわたり安定的かつ高い売上高営業利益率を維持（2003年度以降19年連続10%以上）



※ 2021年度実績・会計方針の変更影響を含む

- ROEを従前より最重要の経営指標とし、高水準を維持
- 前中期経営計画(2019-2021年度)では16%以上維持を目標に掲げ、達成
(2021年度実績19.2%、東証プライム市場上場企業平均8.7%)
- 新中期経営計画(2022-2027年度)では18%以上維持が目標、2022年度予想は19.7%



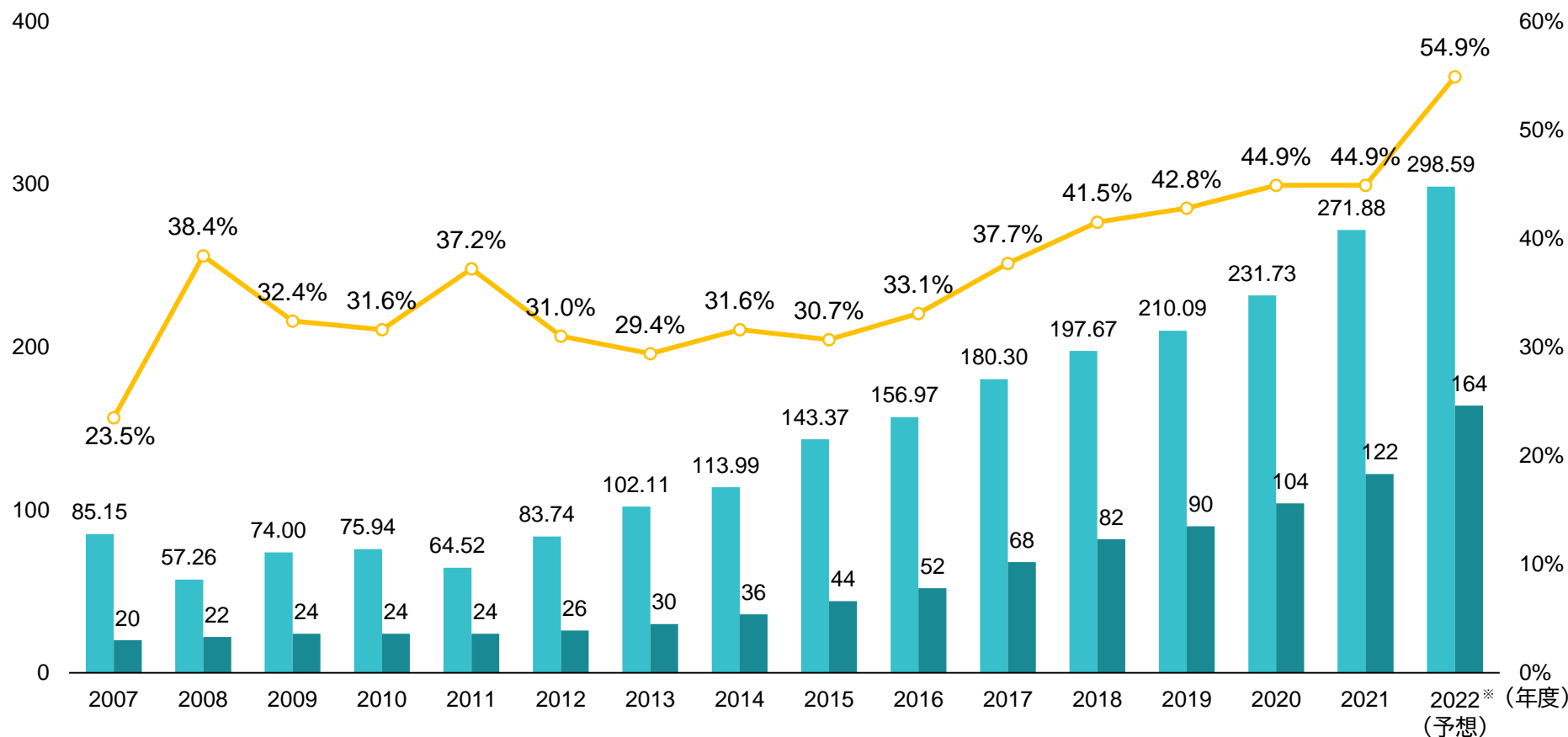
- 積極的な株主還元により自己資本水準をコントロールし、ROEの向上も図る
- 配当性向(=配当/一株当たり当期純利益(EPS))
2015年度までは30%前後、2016年度から段階的に引き上げ、21年度実績45%
- 新中期経営計画(2022-2027年度)では45%から55%に引き上げ、直接的な株主還元をより重視

■ 配当性向 中期経営計画目標と実績

	2019年度	2020年度	2021年度	2022~27年度
前中計目標	42.5%	45%	45%	(新中期経営計画)
実績	42.8%	45%	45%	55%目標

- 新中期経営計画(2022-2027年度)では45%から55%に引き上げ、直接的な株主還元をより重視
- 2012年度以降2021年度まで10期連続増配

(円/株) ■ EPS(左軸) ■ 配当(左軸) ○ 配当性向(右軸)



※2022年11月発表

自己株式取得

- ROE向上を目的に、2006年度から継続して実施
取得株は基本的に取得した年度に消却する方針
- 2006-21年度
取得総額1,045億円、取得総数4,475万株(取得開始前発行済株式数の23.8%)
消却済株数4,464万株

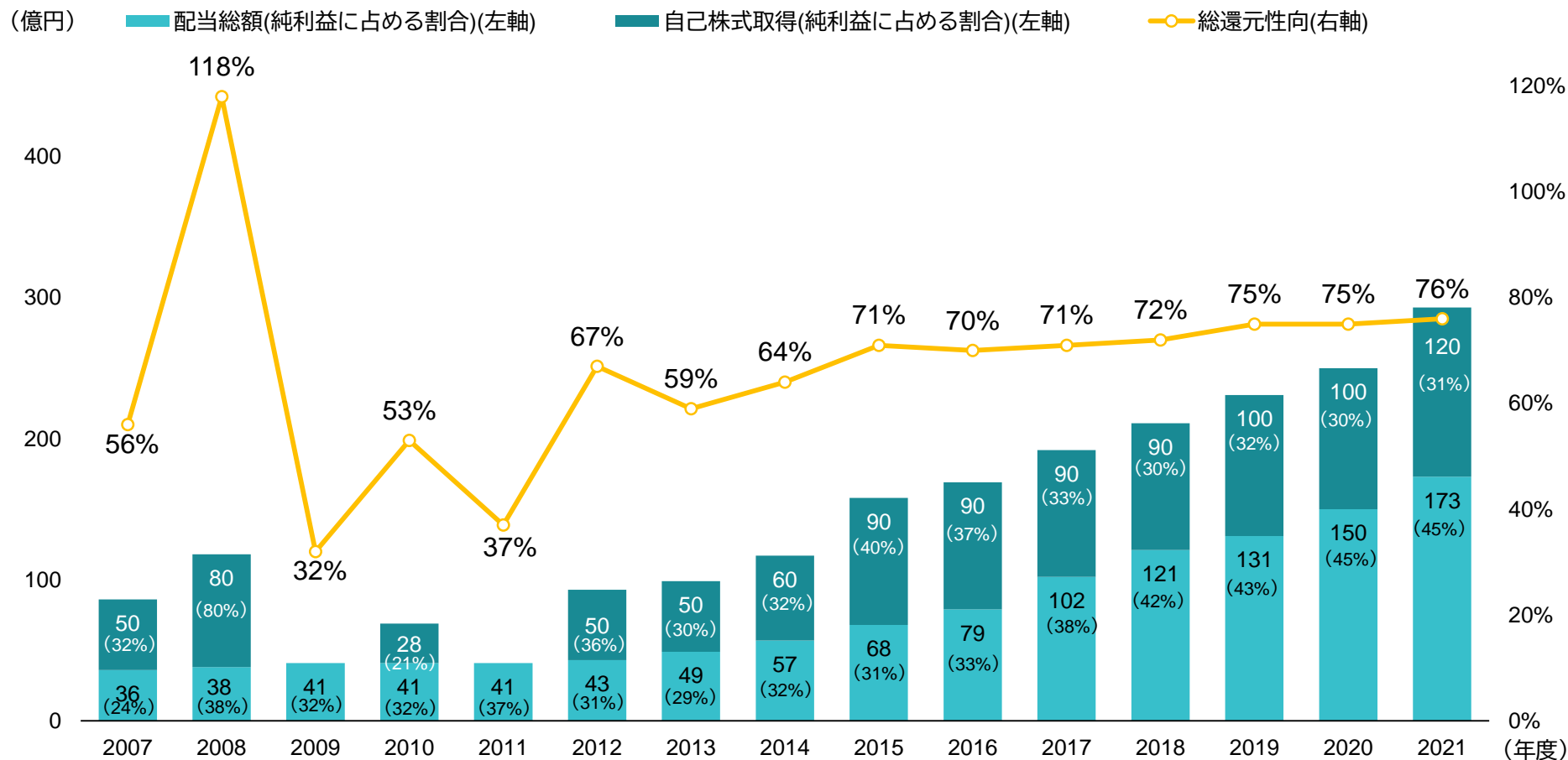
株主総還元性向（(配当総額+自己株式取得額)÷当期純利益）

- 配当と自己株式取得を合わせた株主の皆様への積極的な利益還元の結果、近年は70%台で推移(日本企業平均:45%程度)、2021年度実績76%(配当45%、自己株31%)

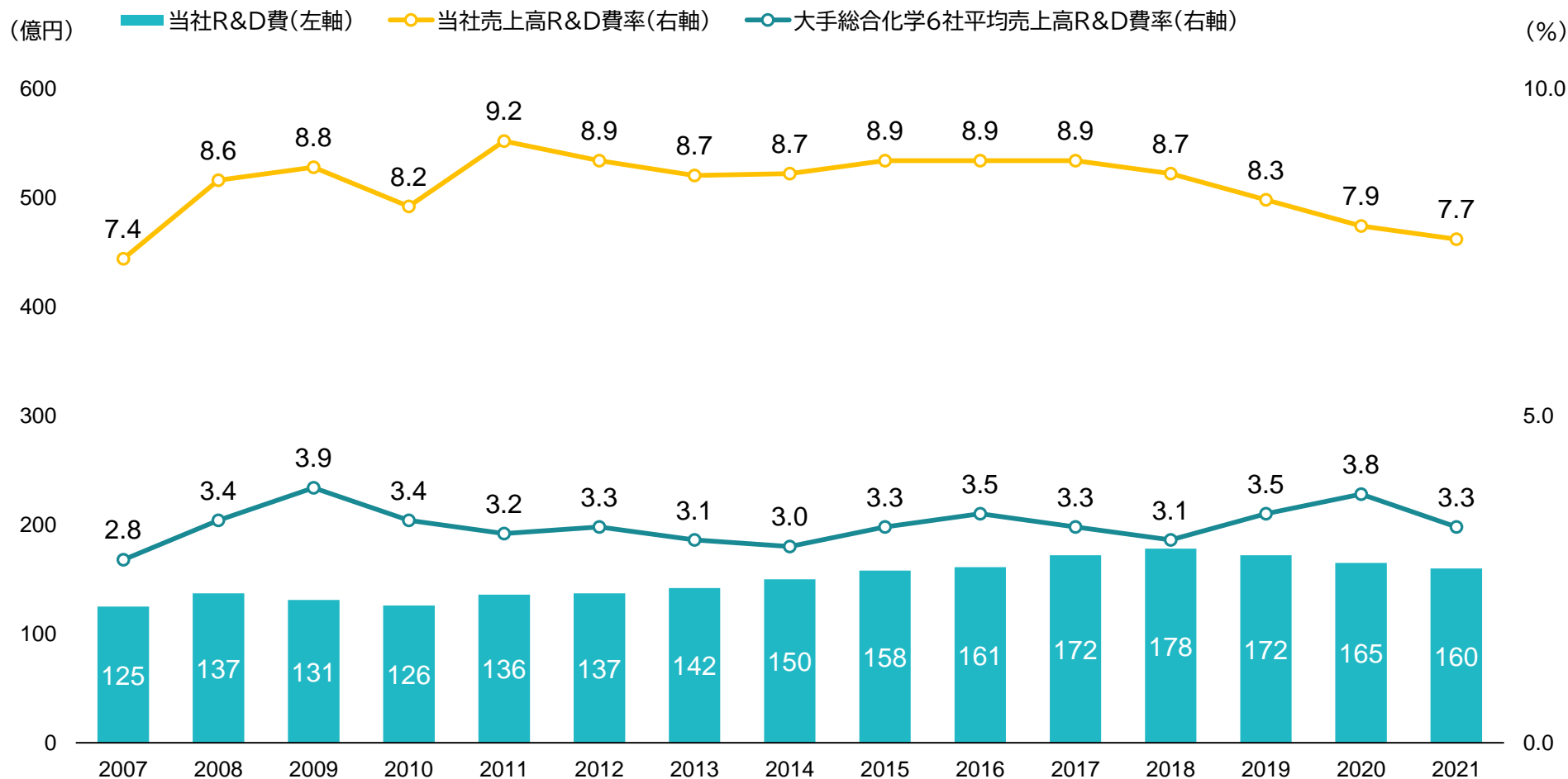
総還元性向 中期経営計画目標と実績

	2019年度	2020・21年度	2022~27年度
総還元性向	72.5%達成	75%達成	75%目標
配当性向	42.5%達成	45%達成	55%目標

- 配当と自己株式取得による株主還元の結果、総還元性向は70%台で推移
- 前中期経営計画(2019-2021年度)では、2019年度72.5%、2020年度以降75%が目標で、全て達成(2021年度実績は76%)
- 新中期経営計画(2022-2027年度)では75%が目標



- 独自の革新的技術で社会の要請に応える未来創造企業
- R&Dを重視し、売上高R&D費率は8-9%と高水準を維持
- 総合職の約40%はR&D要員

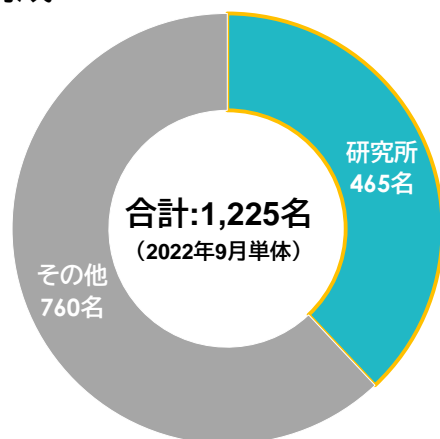


- R&Dに多額の投資を行ってもなお、会社全体で高い営業利益率を確保
- 総合職の約40%は研究開発に関わる人材

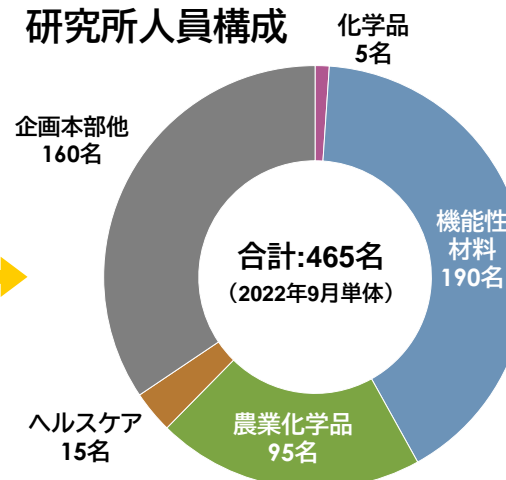
■ セグメント別研究開発費

セグメント	2022年度 予想(2022年11月発表)				
	売上高 (億円)	営業利益 (億円)	売上高 営業利益率	R&D費 (億円)	売上高 R&D費率
化学品	424	25	5.9%	3	0.7%
機能性材料	892	303	34.0%	73	8.2%
農業化学品	792	219	27.7%	44	5.6%
ヘルスケア	66	28	42.4%	6	9.1%
企画本部他	-	-	-	42	-
合計(企画本部他含む)	2,342	555	23.7%	168	7.2%

■ 総合職 人員構成



■ セグメント別 研究所人員構成

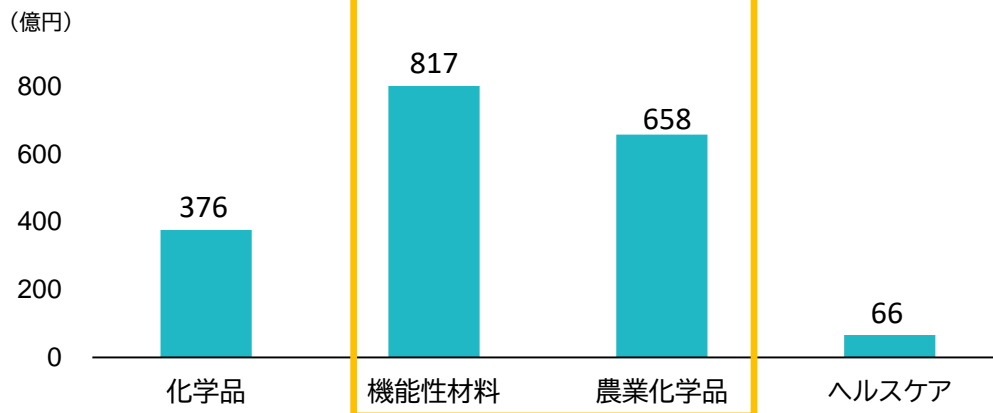


※ 表記している人数は概数

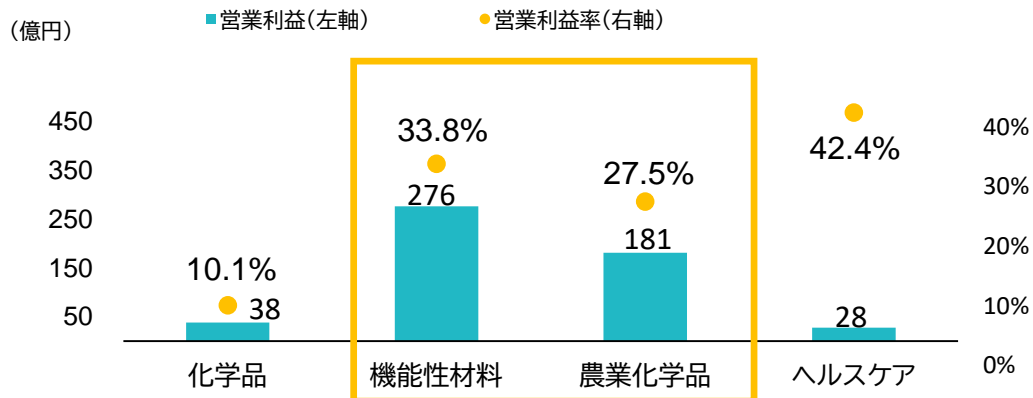
当社の事業構成(2021年度)

- 主要製品がニッチな市場で高いシェアを有し、成長を牽引
- 高収益、高成長、安定のバランス

2021年度 売上構成 本日ご説明:機能性材料、農業化学品



2021年度 営業利益構成※



化学品

高付加価値化志向

- アンモニア系製品、硫酸系製品、ファインケミカル
- 2016年度、アンモニア製造の原燃料を、ナフサから天然ガスへ転換

機能性材料

高収益源、高い市場シェア、新製品開発力

- 液晶ディスプレイ材料
- 半導体材料
- 無機コロイド

農業化学品

近年高成長を維持

- 農薬
- 動物用医薬品

ヘルスケア

医療用医薬品の創薬・開発に特化し販売部門を有さないユニークなビジネスモデル

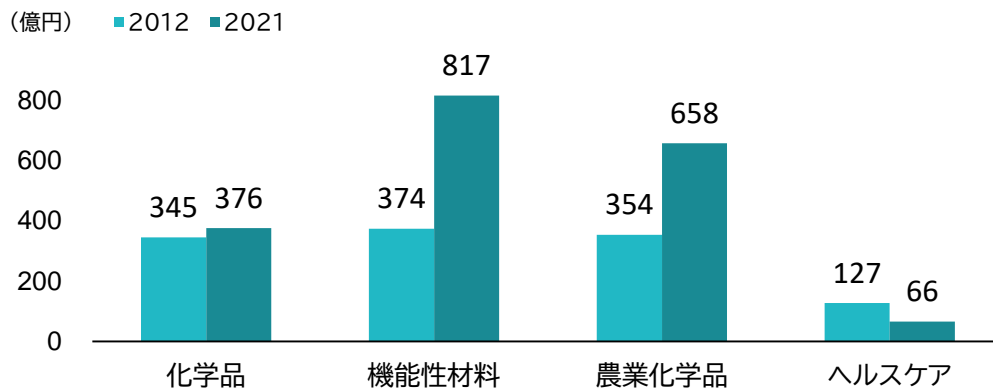
- 自社創薬
- 原薬開発サポート

※ 2022年4月に組織改定を実施。2021年度実績はセグメント区分変更後の数値に置き換え済み

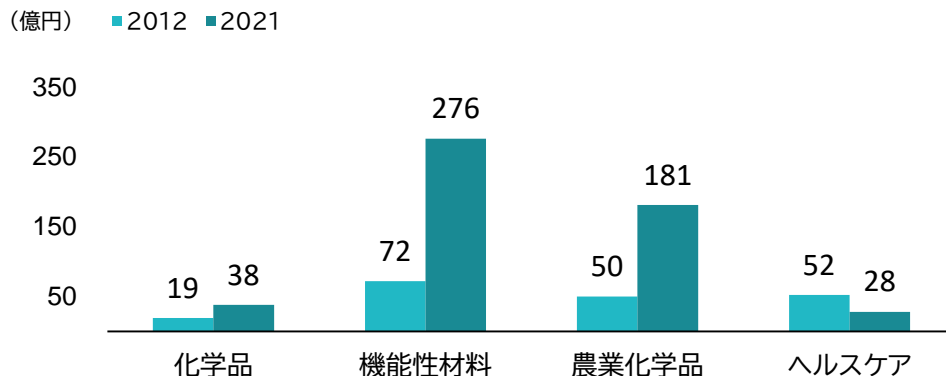
当社の事業構成(2012年度と2021年度の比較)

- 主要製品がニッチな市場で高いシェアを有し、成長を牽引
- 高収益、高成長、安定のバランス

売上構成



営業利益構成※



化学品

高付加価値化志向

- アンモニア系製品、硫酸系製品、ファインケミカル
- 2016年度、アンモニア製造の原燃料を、ナフサから天然ガスへ転換

機能性材料

高収益源、高い市場シェア、新製品開発力

- 液晶ディスプレイ材料
- 半導体材料
- 無機コロイド

農業化学品

近年高成長を維持

- 農薬
- 動物用医薬品

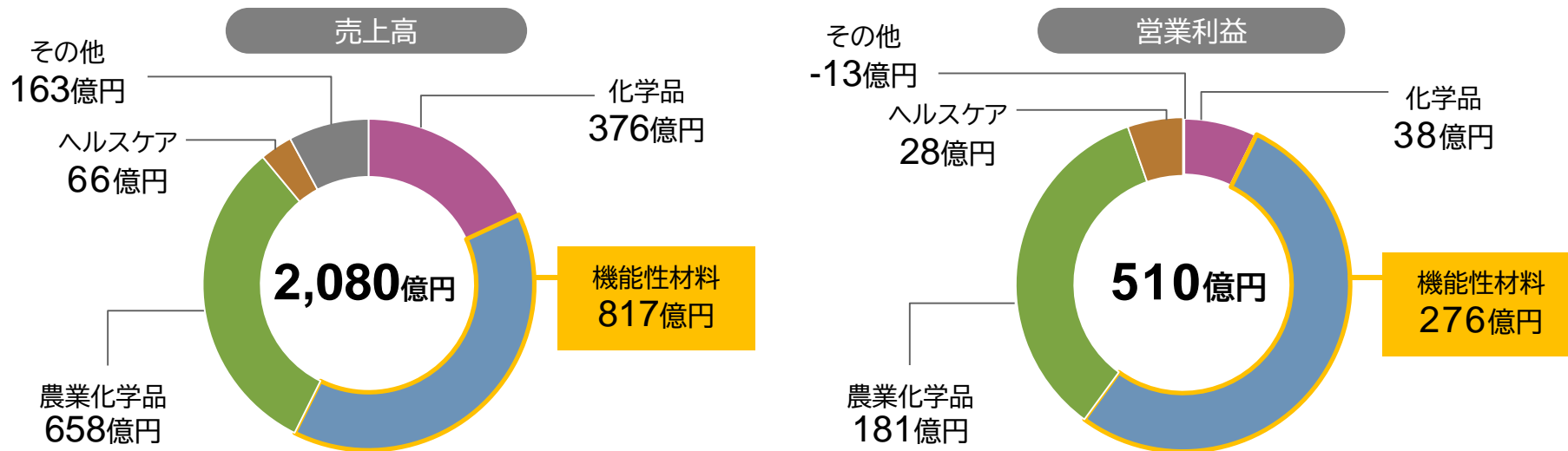
ヘルスケア

医療用医薬品の創薬・開発に特化し販売部門を有さないユニークなビジネスモデル

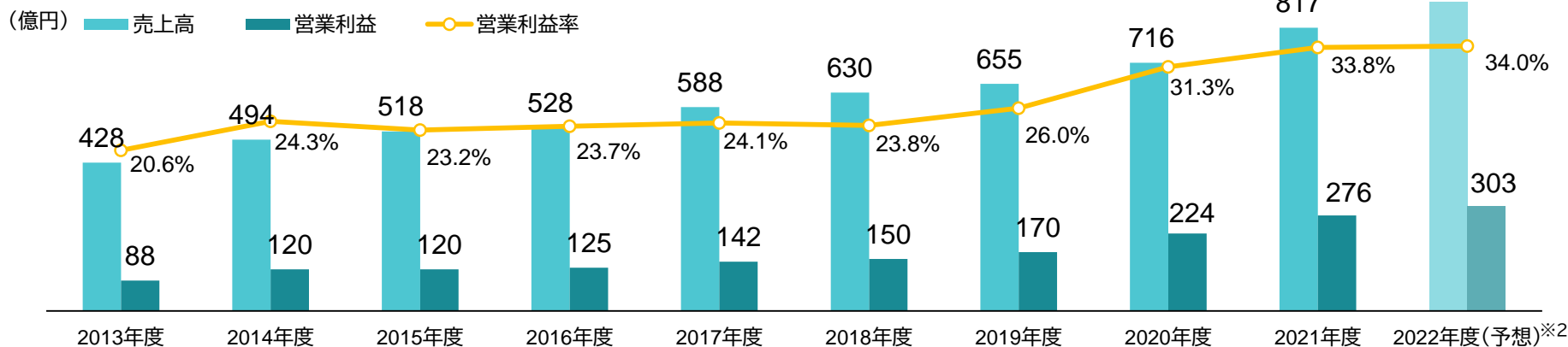
- 自社創薬
- 原薬開発サポート

※ 2022年4月に組織改定を実施。2012年度実績は旧セグメント区分。
2021年度実績はセグメント区分変更後の数値に置き換え済み

2021年度セグメント別業績※1



機能性材料セグメント業績推移



※1 2022年4月に組織改定を実施。2013～2020年度実績は旧セグメント区分。2021年度実績はセグメント区分変更後の数値に置き換え済み

※2 予想は2022年11月発表

- 高収益源
- 世界市場シェアの高い製品を有す
- 新製品開発力（2022年度売上高研究開発費率予想8.2%）

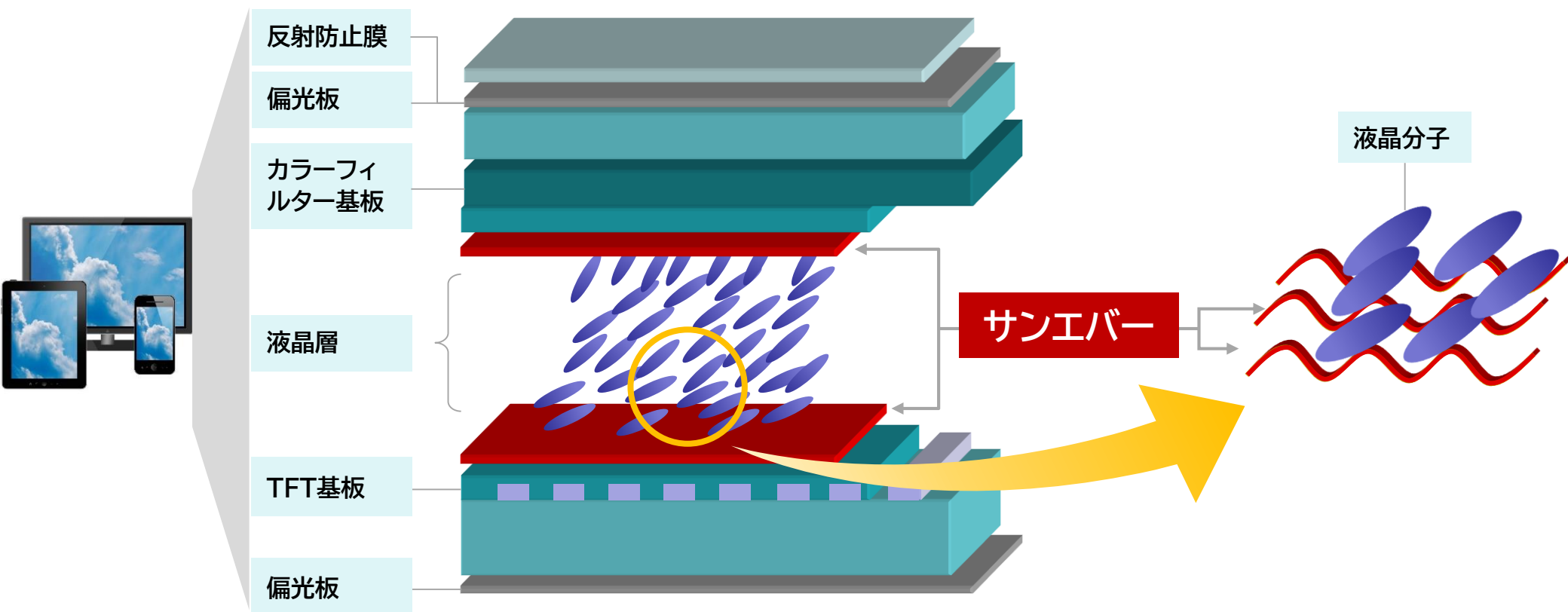
■ セグメント別研究開発費

セグメント	2022年度 予想(2022年11月発表)				
	売上高 (億円)	営業利益 (億円)	売上高 営業利益率	R&D費 (億円)	売上高 R&D費率
化学品	424	25	5.9%	3	0.7%
機能性材料	892	303	34.0%	73	8.2%
農業化学品	792	219	27.7%	44	5.6%
ヘルスケア	66	28	42.4%	6	9.1%
企画本部他	-	-	-	42	-
合計(企画本部他含む)	2,342	555	23.7%	168	7.2%

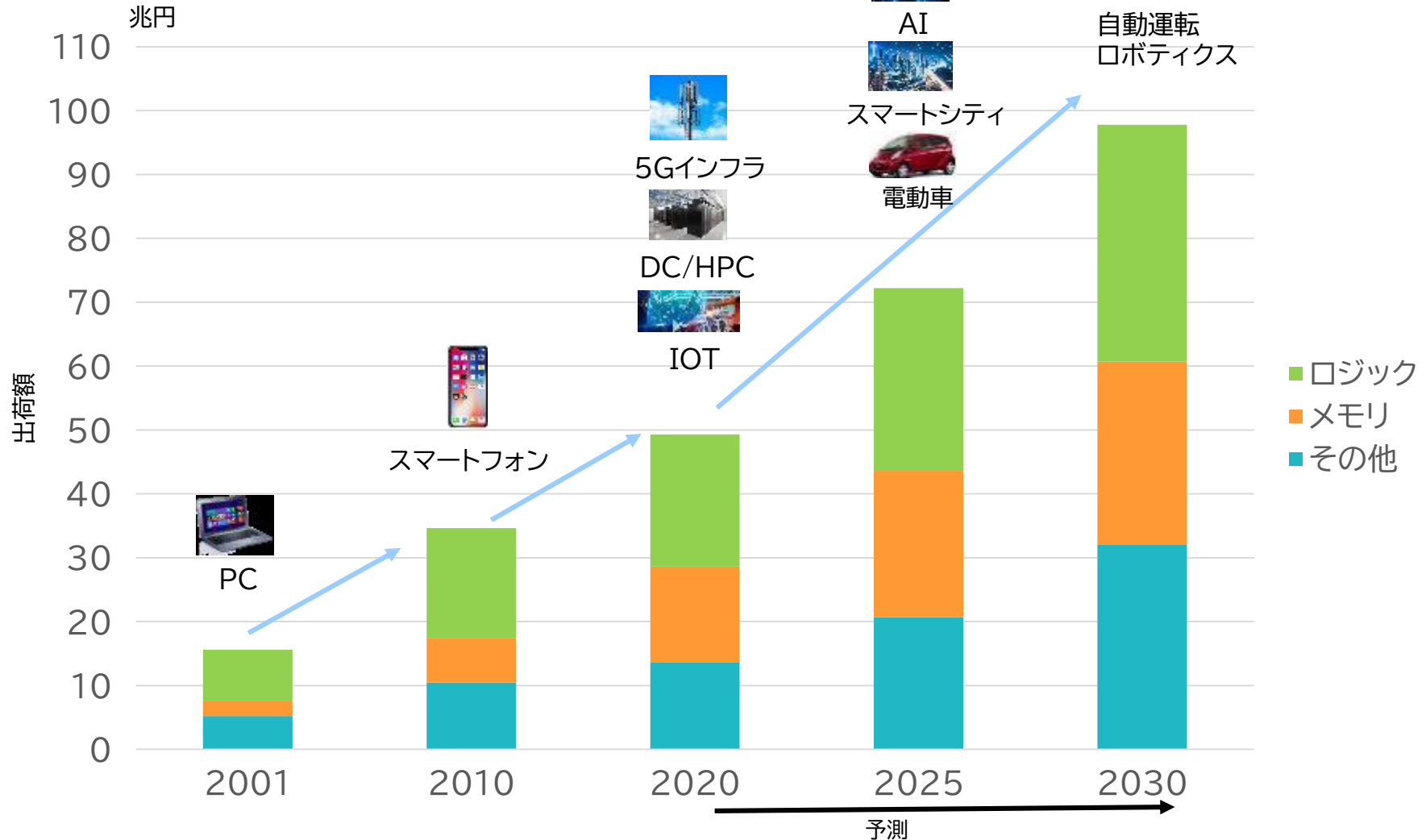
■ 液晶ディスプレイ用配向膜 サンエバー

- 液晶の向き、反応速度、コントラスト、解像度、焼き付きなどを制御する材料
- 当社とA社が世界第二大メーカー
- 当社は、新技術の光配向IPS市場において、スマホ・タブレット・ノートPC・モニター・車載向けで圧倒的シェア

■ 液晶パネル断面図



■ 世界の半導体市場



(出典) 経済産業省 2021年11月 第4回半導体・デジタル産業戦略検討会議資料

(https://www.meti.go.jp/policy/mono_info_service/joho/conference/semicon_digital/0004/03.pdf)

■ 半導体反射防止コーティング材(ARC[®] : Anti-Reflective Coating for semiconductor)

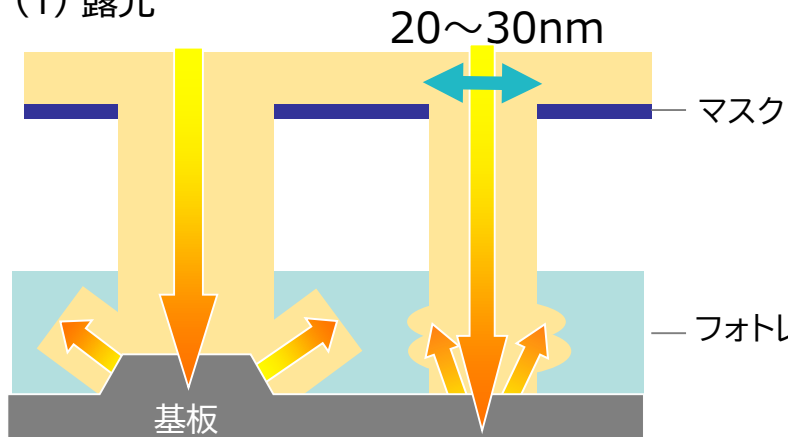
- 露光時に光の反射を防止することにより、微細なパターン形成を可能とするコーティング材料
- 当社は、アジアで圧倒的最大のシェアを有し、アジアの半導体産業の成長とともに当社事業も拡大

※ ARC[®]およびOptiStack[®]はBrewer Science, Inc. の登録商標

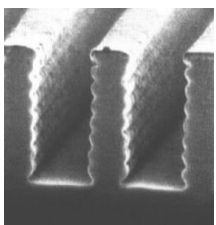


コーティング不使用

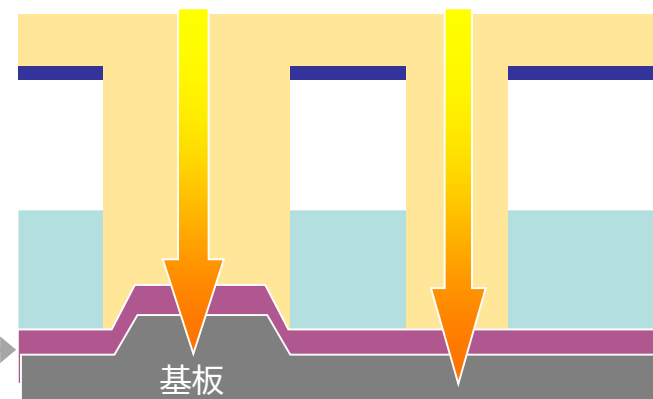
(1) 露光



(2) 現像後

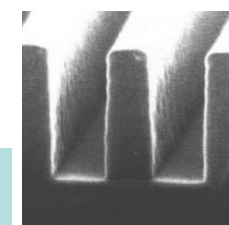


コーティング使用

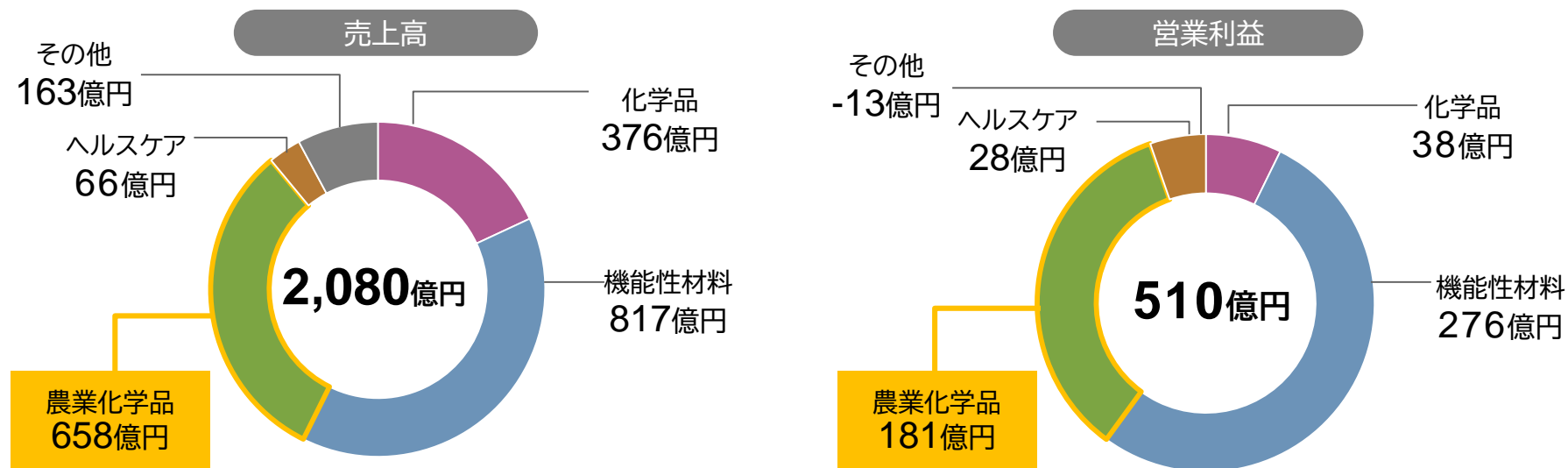


反射防止コーティング

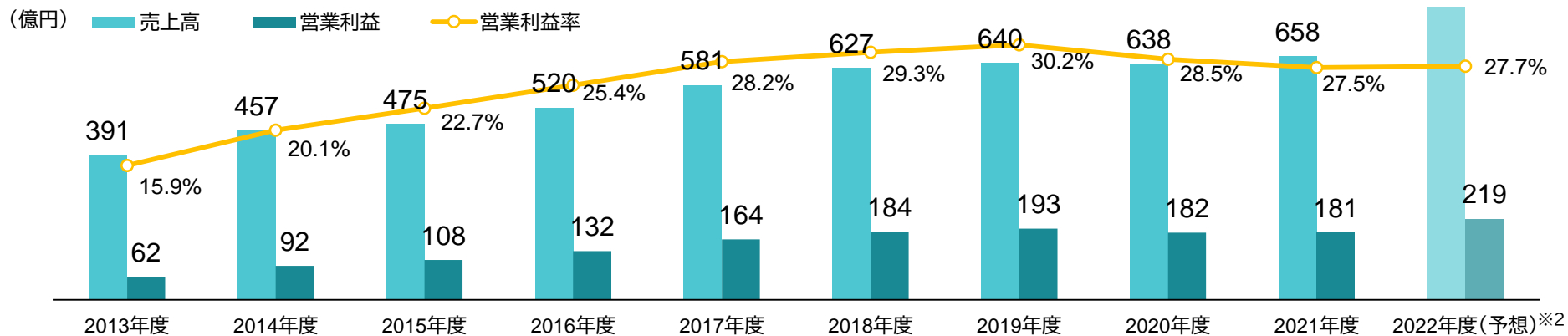
反射しない



2021年度セグメント別業績※1



農業化学品セグメント業績推移

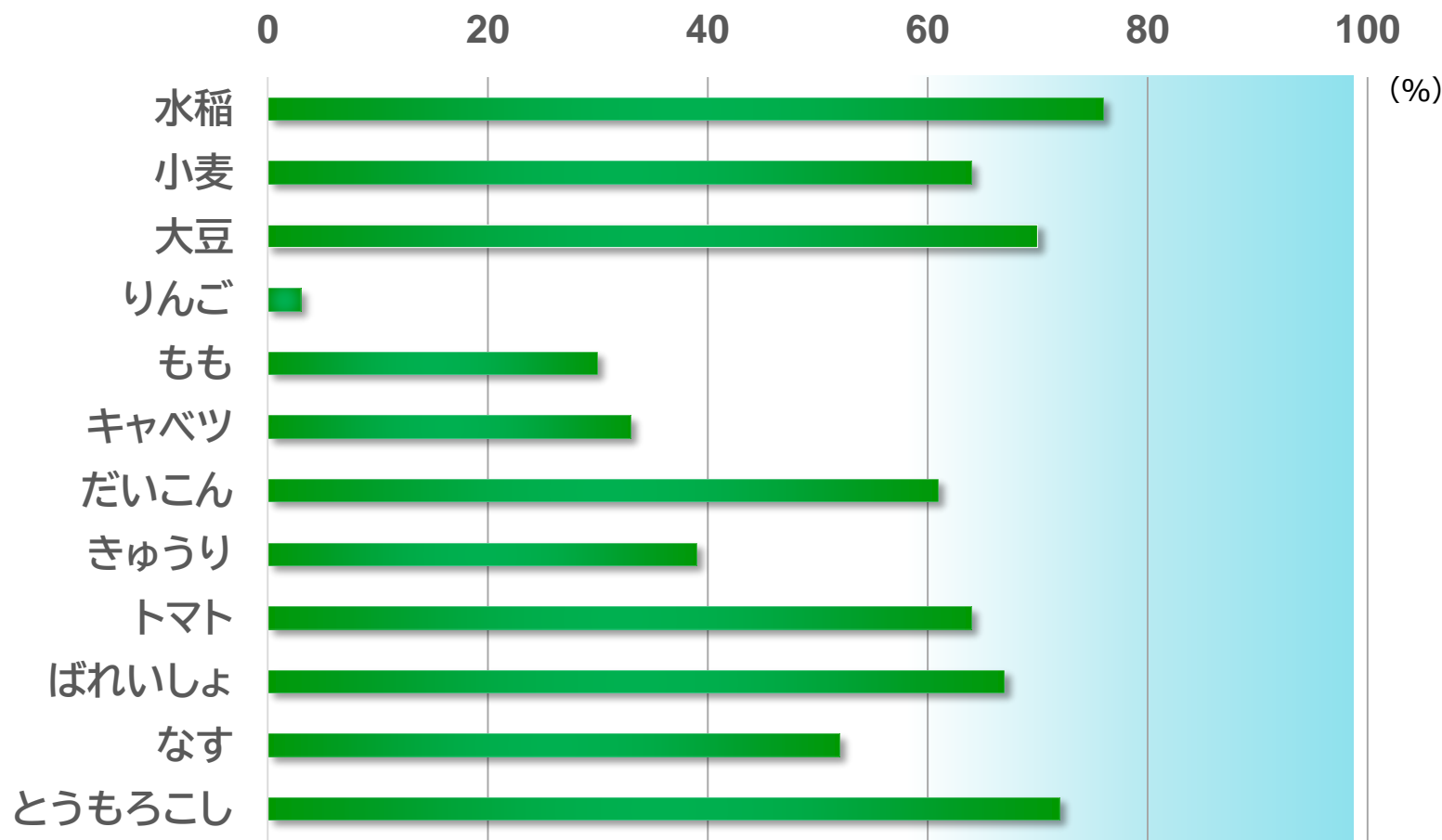


※1 2022年4月に組織改定を実施。2013～2020年度実績は旧セグメント区分。2021年度実績はセグメント区分変更後の数値に置き換え済み

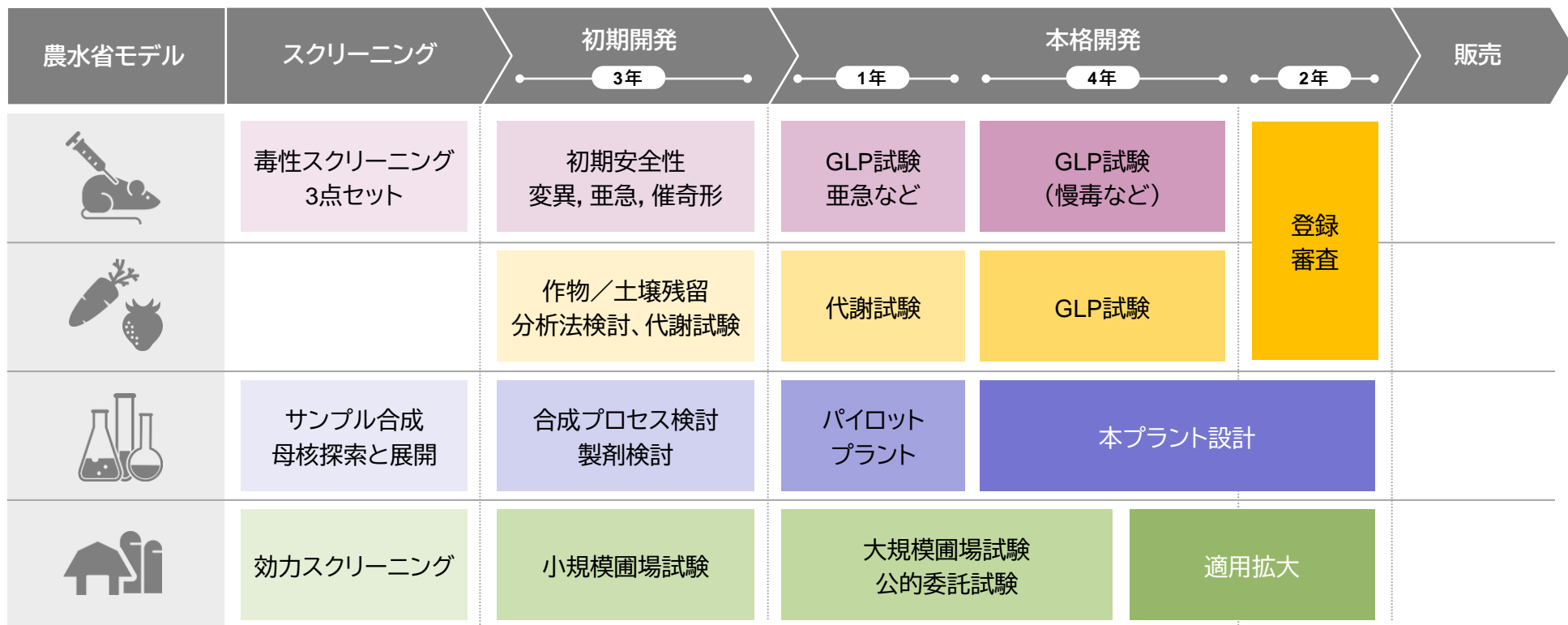
※2 予想は2022年11月発表

- 世界の人口は2050年までに97億人に達する予測(国連推計)
- 食料の確保は人類生存にとって重要な課題

■ 農薬を使用しなかった場合の収量
 (農薬使用時の収量を100%とした場合の、農薬不使用時の収量)



- 新剤開発には、長期間、多額の研究開発費を要する
- 経済変動の影響が小さい安定的事業
- 自社開発新剤を柱に、剤の買収・導入による販売力強化
 - 2019年11月 殺菌剤クインテック買収
 - 2020年12月 殺菌剤ダイセン買収
(ともに米国コルテバ社より)
- 国内農薬販売額No.1(2019年10月～2020年9月)
- 現在は、アルテア(水稲用除草剤)、フルララネル(動物用医薬品原薬)、グレーシア(殺虫剤)などを成長エンジンとして高成長



139,429件

2件

1件

宝くじ 3等
1,000,000円
→ 0.0004%

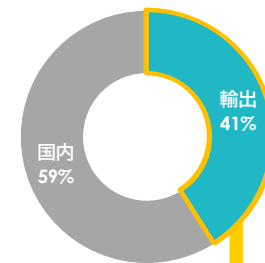


上市年度	製品名	分類	開発経緯	備考
2002	ラウンドアップ	除草剤	買収	米国モンサント社より国内事業を買収、継続成長中
2008	ライメイ	殺菌剤	自社開発	
2008	スターマイト	殺虫剤	自社開発	
2009	パルサー(チフルザミド)	殺菌剤	買収	米国ダウ社より世界事業を買収
2009	プレバソン	殺虫剤	導入	米国デュボン社より導入
2010	ラウンドアップマックスロードAL	除草剤	自社開発	一般家庭向け希釈済みシャワータイプ除草剤。2016年AIⅡ、2018年AIⅢ上市、急成長
2011	アルテア	除草剤	自社開発	2011年韓国で上市、2012年日本で上市
2013	フルララネル	動物用医薬品原薬	自社開発	米国MSD社*1向けにプラバクト原薬として出荷開始
2014	プラバクト*2	ペット動物用医薬品	-	2014年4月欧州、6月米国、15年7月日本で上市
2015	トレファノサイド	除草剤	導入	米国ゴーワン社がダウ社より買収、当社は国内販売独占権を継承
2017	ネクスター	殺菌剤	導入	スイスシンジェンタ社より導入
2017	トランスフォーム™/エクシード™/ビレスコ™	殺虫剤	導入	米国ダウ社より導入
2017	エグゾルト*2	家畜動物用医薬品	-	9月米国MSD社による、欧州でのニワトリ用製品上市
2018	グレーシア	殺虫剤	自社開発	広範囲の重要害虫に有効、ミツバチへの影響が少ない。2018年韓国、2019年日本、2021年インド・インドネシアで上市(ピーク時売上高目標100億円)
2019	クインテック(キノキシフェン)	殺菌剤	買収	2019年11月米国コルテバ社より世界事業を買収。果樹野菜のうどんこ病(カビの1種)の発病予防に非常に効果的
2020	ダイセン(マンゼブ)	殺菌剤	買収	2020年12月米国コルテバ社より日本・韓国事業を買収。果樹野菜用の保護除菌剤、耐雨性に優れる
2024	未定(ジメスルファゼット)(NC-653)	除草剤	自社開発	イネへの優れた安全性があり、抵抗性ホタルイカや難防除雑草クログワイに高い効果を持つ(ピーク時売上目標35億円)
2025	未定(NC-520)	殺虫剤	共同開発	他社との共同開発の新規水稲用殺虫剤。ウンカ類への効果が高い(混合剤も含めピーク時売上目標25億円)
2027	未定(NC-656)	除草剤	自社開発	抵抗性イネ科雑草(ヒエ・アゼガヤ)に優れた効果を持つ。当社初の水稲用茎葉除草剤(ピーク時売上高目標100億円)

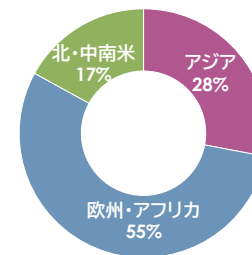
既存製品

新製品・パイプライン

農業化学品セグメントの輸出比率(2021年度実績)*3



- 地域別分布



新製品群のピーク時売上高目標合計
310億円

*1 MSD社:米国メルク社のアニマルヘルス事業部門のMSD Animal Health 社の略称 *2 プラバクト・エグゾルト:MSD社の販売製品名 *3 フルララネルを含める

アルテア

- ホタルイやカヤツリグサ科多年生雑草に卓効を示す広スペクトラム除草剤
- 従来のスルホニルウレア系除草剤に抵抗性を示す雑草にも有効
- 日本、韓国、中国で販売中

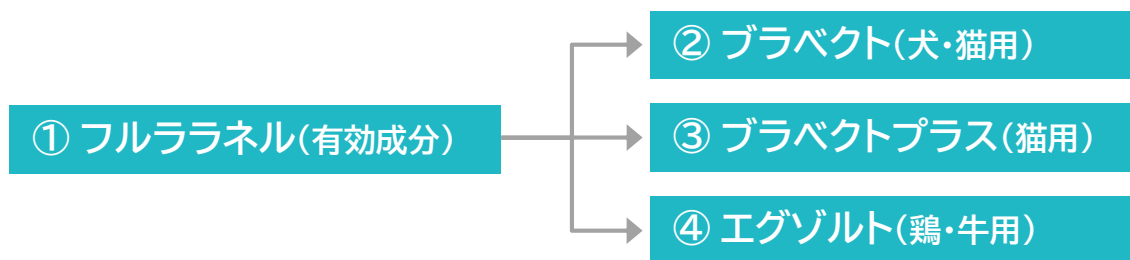
問題の`根`は、
地下にありました。

ホタルイや多年生雑草の地上部を枯らすだけでなく、翌年の発生原因となる塊茎の形成も抑えることができる。新成分「アルテア」配合の水稲用除草剤シリーズが新登場。未来につながる雑草防除を、お勧めします。

誕生！ 多年生雑草も抑える新成分、「アルテア」配合の除草剤シリーズ。



- 当社が発明した化合物「フルララネル」を有効成分とするブラベクトシリーズ・エグゾルトは現在100か国以上で販売中
- ブラベクト最大の特徴は12週間にわたる効果持続性(既存製品は1か月程度)



① フルララネル(Fluralaner)

- ブラベクト・エグゾルトの有効成分。当社がMSD社※1に供給
- これまでのペット用外部寄生虫薬とは異なる新たな作用機序を有している
- 化合物特許
 - 2025年3月に終了するが、多数の国で延長制度あり
 - UK、ドイツ、フランス等一部欧州諸国では、2029年2月まで延長済み、米国は延長申請中

② ブラベクト(BRAVECTO)

- MSD社が開発したペット用外部寄生虫薬。犬・猫のノミ、マダニの主要種に対し即効性に優れる
- 通常1か月毎に投薬する既存製品より殺虫効果の持続性が長く、12週間※2にわたって持続する
- 犬向けチュアブルタブレット(経口投与製剤)
 - 2014年4月欧州、以降米国、日本等で上市、2019年7月中国上市
 - 2020年7月1か月剤(子犬向け)米国上市
- 犬、猫向けスポットオン製品(経皮投与製剤)
 - (猫)2016年7月欧州、以降米国、日本等上市
 - (犬)2017年1月米国・欧州等上市、2021年1月日本上市

③ ブラベクトプラス (BRAVECTO Plus)

- 猫向け内外部寄生虫スポットオン合剤
 - 2018年7月欧州、以降米国等上市、2021年1月日本上市

④ エグゾルト(EXZOLT)

- 鶏向けワクモ駆除剤(飲水投与)
 - 2017年9月欧州、以降韓国、中東等上市、2021年7月日本上市
- 牛向け
 - 2022年3月ブラジル、5月メキシコ販売承認

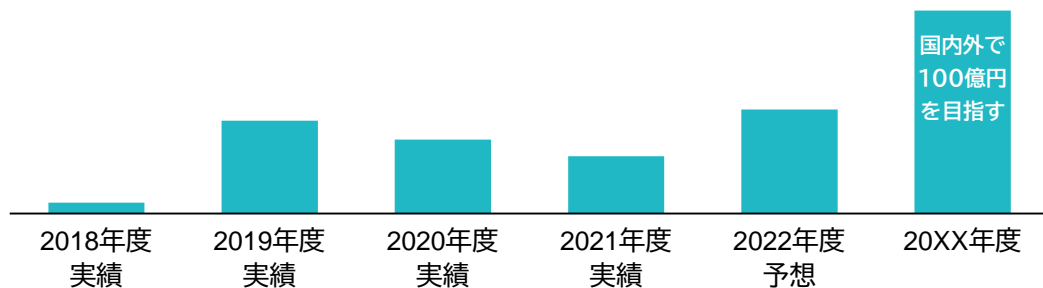
※1 米国メルク社のアニマルヘルス事業部門のMSD Animal Health 社の略称

※2 クリイロコイタマダニは8週間

グレースシア

- 野菜、茶用殺虫剤
- 広範囲の害虫に有効で、既存剤に抵抗性を示す害虫にも効果を発揮
- 有効成分が直接害虫に作用し、速く効く
- ミツバチへの影響が少ない
- 日本、韓国、インドなどで販売中

グレースシア売上高



食害される前に駆除できる。



※1 殺滅率の測定は25℃で行った結果です。※2 殺滅率の測定は25℃で行った結果です。※3 殺滅率の測定は25℃で行った結果です。※4 殺滅率の測定は25℃で行った結果です。※5 殺滅率の測定は25℃で行った結果です。

セグメント別売上高、営業利益推移

(億円)

売上高	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022 (11月予想)
化学品	355	343	343	348	349	357	343	319	376	424
機能性材料	428	494	518	528	588	630	655	716	817	892
農業化学品	391	457	475	520	581	627	640	638	658	792
ヘルスケア	116	88	87	80	75	70	70	67	66	66
卸売	507	544	556	552	595	679	679	698	804	957
その他	214	209	209	240	215	246	224	238	236	280
調整額	-374	-423	-419	-465	-469	-560	-543	-585	-877	-1,069
合計	1,637	1,712	1,769	1,803	1,934	2,049	2,068	2,091	2,080	2,342

営業利益

化学品	19	19	39	38	34	30	13	15	38	25
機能性材料	88	120	120	125	142	150	170	224	276	303
農業化学品	62	92	108	132	164	184	193	182	181	219
ヘルスケア	49	23	20	17	12	10	9	4	28	28
卸売	15	17	18	17	18	20	21	25	29	28
その他	8	6	5	10	6	9	7	8	7	10
調整額	-19	-24	-24	-25	-26	-32	-27	-33	-49	-58
合計	222	253	286	314	350	371	386	425	510	555

※ 売上高はセグメント間の内部売上高又は振替高を含む

※ 2021- :会計方針の変更による売上高減少を含む

※ 卸売: 日星産業、その他: 日産物流・日産緑化・日産エンジニアリング・日本肥糧ほか、調整額: 企画本部ほか

※ 2022年4月に組織改定を実施。2013~2020年度実績は旧セグメント区分、2021年度実績はセグメント区分変更後の数値に置き換え済み

セグメント別売上高営業利益率推移

売上高営業利益率

(億円)

	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022 (11月予想)
化学品	5.4%	5.5%	11.4%	10.9%	9.7%	8.4%	3.8%	4.7%	10.1%	5.9%
機能性材料	20.6%	24.3%	23.2%	23.7%	24.1%	23.8%	26.0%	31.3%	33.8%	34.0%
農業化学品	15.9%	20.1%	22.7%	25.4%	28.2%	29.3%	30.2%	28.5%	27.5%	27.7%
ヘルスケア	42.2%	26.1%	23.0%	21.3%	16.0%	14.3%	12.9%	6.0%	42.4%	42.4%
卸売	3.0%	3.1%	3.2%	3.1%	3.0%	2.9%	3.1%	3.6%	3.6%	2.9%
その他	3.7%	2.9%	2.4%	4.2%	2.8%	3.7%	3.1%	3.4%	3.0%	3.6%
合計	13.6%	14.8%	16.2%	17.4%	18.1%	18.1%	18.7%	20.3%	24.5%	23.7%

※ 売上高はセグメント間の内部売上高又は振替高を含む

※ 2021- : 会計方針の変更による売上高減少を含む

※ 卸売: 日星産業、その他: 日産物流・日産緑化・日産エンジニアリング・日本肥糧ほか

※ 2022年4月に組織改定を実施。2013～2020年度実績は旧セグメント区分、2021年度実績はセグメント区分変更後の数値に置き換え済み

- コロナ禍前に作成した2021年度中計利益目標値(2019年5月発表)を全て大幅超過達成
- 営業利益は8年連続で最高益更新
- 長期経営計画「Progress2030」の営業利益目標500億円を9年前倒しで達成

(億円)

	2018 (実績)	2019 (実績)	2020 (実績)	2021 (実績)	2021 (計画)	差異
	①	②	③	④	⑤	④-⑤
売上高	2,049	2,068	2,091	※2,080	2,350	※-270
営業利益	371	386	425	510	430	+80
経常利益	391	400	439	537	440	+97
純利益	294	308	335	388	330	+58

※会計基準変更影響-229億円を含む

EPS(円/株)	197.67	210.09	231.73	271.88	230.00	+41.88
ROE	16.6%	16.9%	17.5%	19.2%	16%以上	+3.2pt
為替レート(円/ドル)	111	109	106	112	110	+2
原油 (JCC)(USD/bbl)	72	68	43	77	64	+13

コロナ禍前に作成した2021年度中計目標値を全て達成

	2021 (実績)	2021 (計画)	
売上高営業利益率	24.5%	18%以上	達成
ROE	19.2%	16%以上	達成
配当性向	44.9%	45%維持	達成
株主総還元性向	75.6%	75%維持	達成
自己株式取得額／当期純利益	30.7%	30%	

Atelier2050

2050年のあるべき姿 事業領域

既存のコア技術に加え、新技術を獲得し、3つの成長事業に関する新たな領域に進出
コア技術の深化と融合により各事業領域の成長を加速させ、社会課題解決に貢献する

社会課題
の解決

地球環境の保全
食料問題の解決

気候変動の緩和
スマート社会の実現

健康問題への対応
生活の質の向上



事業

新たな領域
への進出

① 情報通信

- 半導体材料
- ディ스플레이材料
- 光機能性材料

● センシングシステム

(IoTセンサー材料)

- **メタマテリアル材料**

② ライフサイエンス

- 農薬
- 動物薬
- 生体材料
- 医薬品
(低分子、核酸、ペプチド)

(生体模倣センサー)

● **マイクロバイーム**

(農業・医療)

- **バイオスティミュラント**

③ 環境エネルギー

- 2次・燃料電池材料

- **次世代太陽電池材料**

- **CCUS材料**

- **CO₂還元システム**

④ 素材・サービス

- 工業薬品
- コロイダルシリカ
- 関係会社

成長事業

基盤事業

コア技術

既存技術

精密有機合成

機能性高分子設計

微粒子制御

生物評価

光制御

新技術

微生物制御

情報科学

現有製品を成長の源泉の主軸とし、次世代の成長の源泉となる新製品も育成

	(億円)					(億円)	
	2021年 (実績)	2022年 (5月予想※1)	2022年 (11月予想※2)	2024年 (計画)	2027年 (計画)	24年-21年	27年-21年
	①	②	③	④	⑤	④-①	⑤-①
売上高	2,080	2,190	2,342	2,550	2,850	+470	+770
営業利益	510	535	555	585	670	+75	+160
経常利益	537	541	583	595	680	+58	+143
純利益	388	396	421	440	500	+52	+112
EPS(円/株)	271.88	280.90	298.59	317.64	371.67	+45.76	+99.79
ROE (%)	19.2%	18.7%	19.7%	18%以上	18%以上	-	-
為替レート(円/ドル)	112	115	135	110	110		
原油(JCC) (USD/bbl)	77	88	110	88	88		

※1 中期経営計画発表時(2022年5月)の数値 ※2 業績予想修正後(2022年11月)の数値

現有製品を成長の源泉の主軸とし、次世代の成長の源泉となる新製品も育成

	2021年 (実績※1)	2022年 (5月予想※2)	2022年 (11月予想※3)	2024年 (計画)	2027年 (計画)	(億円)	
	①	②	③	④	⑤	24年-21年 ④-①	27年-21年 ⑤-①
化学品	38	22	25	35	39	-3	+1
機能性材料	276	305	303	321	380	+45	+104
農業化学品	181	195	219	217	210	+36	+29
ヘルスケア	28	21	28	21	43	-7	+15
その他	-13	-8	-20	-9	-2	+4	+11
企画本部※4	-49	-52	-55	-47	-47	+2	+2
合計	510	535	555	585	670	+75	+160

※1 2021年度実績はセグメント区分変更後の数値に置き換え済み ※2 中期経営計画発表時(2022年5月)の数値 ※3 業績予想修正後(2022年11月)の数値

※4 企画本部はその他の内数

■ 財務指標	2021年度 (実績)	2022~2027年度 (計画)
売上高営業利益率	24.5%	20%以上
ROE	19.2%	18%以上
配当性向	44.9%	55%維持
総還元性向	75.6%	75%維持
自己株式取得額／当期純利益	30.7%	20%

■ 非財務指標	2027年度 (計画)
日産化学サステナブルアジェンダ (社会課題解決に貢献する製品・サービスの合計売上高/全体売上高)	55%以上維持
GHG排出量の削減	2018年度比30%以上 (2030年度目標を3年前倒し)
社員意識調査の人材育成に関する質問への肯定回答者	65%以上
研究所女性総合職比率	18%以上

2027年の企業像実現のため、当社が取組むべきマテリアリティ(重要課題)を特定
取組みを推進することで社会とともに持続的な成長を目指す

▶▶1

人びとの暮らしに役立つ
新たな価値の提供

▶ 日産化学サステナブル
アジェンダ※1

社会課題解決に貢献する製品・
サービスの全売上に占める割合
55%以上維持

※1 社会課題解決に貢献する製品・サービスの提供により、
「地球と人の未来のためにできること」を追求する計画

▶▶2

自社事業基盤の強化

▶ 人材の確保・育成
人材育成に関する社員意識調査
肯定回答率
65%以上

▶ ダイバーシティ推進
研究所女性総合職比率 **18%以上**

▶▶3

レスポンシブル・ケア活動の
継続的強化

▶ GHG排出削減目標
2018年度比 **30%以上削減**

当社グループの最重要課題

コーポレート・ガバナンス、リスクマネジメント、コンプライアンスの強化

コア技術の鍛錬と育成により、4事業を通じて、社会課題解決に貢献する製品・サービスを提供する

マテリアリティ要素	主な取り組み
環境配慮型製品・サービスの提供	<ul style="list-style-type: none"> ■ 再生可能エネルギー拡大に貢献する材料の開発 ■ サーキュラーエコノミー実現に貢献する材料の開発 ■ 農薬散布量の削減 ■ リサイクル可能な包材の導入 ■ 排ガス除去材料の提供 ■ 浄化槽の殺菌消毒剤の提供 ■ 油脂廃棄物削減を可能にする材料の提供
スマート社会への貢献	<ul style="list-style-type: none"> ■ データ通信の大容量化・高速化、センシングに貢献する材料の提供
食料問題への貢献	<ul style="list-style-type: none"> ■ 食料生産の収量拡大と省力化を実現する農薬の提供 ■ 家畜の健康維持への貢献
生活の質の向上への貢献	<ul style="list-style-type: none"> ■ 飲料水用殺菌消毒剤の提供 ■ ペット用動物薬原薬の提供
健康問題への貢献	<ul style="list-style-type: none"> ■ ジェネリック医薬品の提供 ■ 医薬品受託製造・サービスの提供 ■ 再生医療分野向け材料の開発 ■ 難治性疾患治療薬の開発

コア技術の鍛錬と育成により、4事業を通じて、社会課題解決に貢献する製品・サービスを提供する

マテリアリティ要素	主な製品・サービス	2027年度目標 (2021年度比)
環境配慮型製品・サービスの提供	<ul style="list-style-type: none"> ■ 二次電池材料 ■ 光電変換材料 ■ CCU/CCUS材料 ■ エコプロモート ■ ラウンドノズル ULV5 ■ グリーンダイセン ■ アドブルー® ■ ハイライト ■ ビーナソイルクリーン 	売上高 +10%
スマート社会への貢献	<ul style="list-style-type: none"> ■ ディ스플레이材料 ■ 半導体材料 ■ センサー材料 ■ 光配線材料 	売上高 +55%
食料問題への貢献	<ul style="list-style-type: none"> ■ 農薬 ■ フルララネル(家畜用) 	売上高 +15%
生活の質の向上への貢献	<ul style="list-style-type: none"> ■ ハイライト(飲料水用) ■ フルララネル(ペット用) 	売上高 +15%
健康問題への貢献	<ul style="list-style-type: none"> ■ マキサカルシトール他 ジェネリック医薬品 ■ 医薬品受託製造・サービス ■ 核酸医薬品 ■ FCeMシリーズ ■ prevelexシリーズ 	売上高 +5%
社会課題解決に貢献する製品・サービスの全売上に占める割合 日産化学サステナブルアジェンダ		55% 以上維持

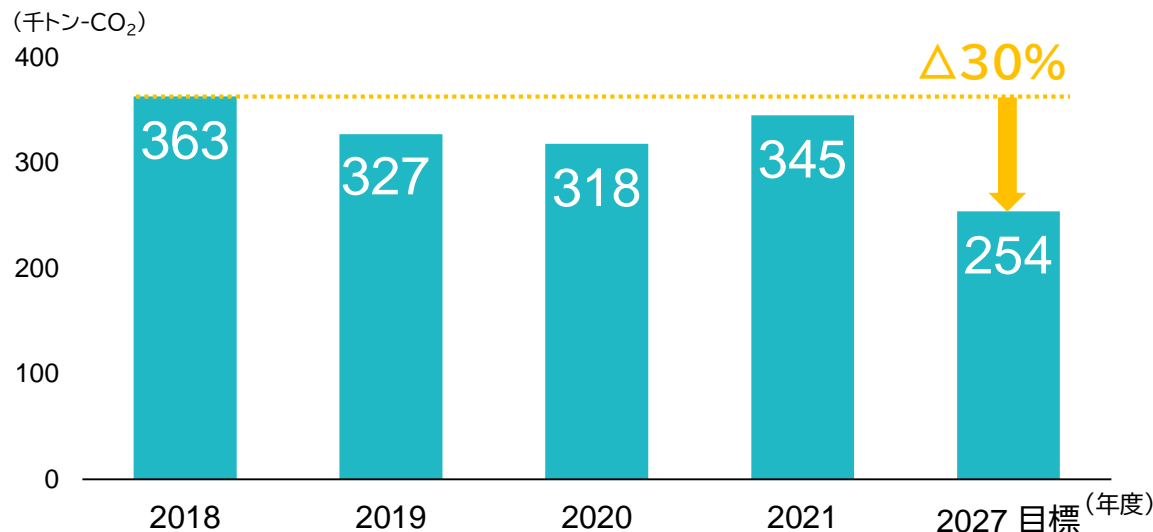
多様化・高度化する市場要求への対応力を高めるため、人的資本の充実など、事業基盤を強化する

マテリアリティ要素	主な取り組み	2027年度目標
研究開発力の強化	<ul style="list-style-type: none"> AIの活用による研究開発の迅速化 コア技術の拡充 オープンイノベーションの更なる活用 	特許出願数(2022~2027年度累計):2,500件
製品の品質向上	<ul style="list-style-type: none"> 重大クレームの未然防止 品質不正・データ改ざんの未然防止 	<ul style="list-style-type: none"> 重大クレーム数 ゼロ件 品質教育:受講率90%以上
従業員の健康維持向上	<ul style="list-style-type: none"> 生活習慣病対策の推進 メンタルヘルス対策の実施 社員への健康維持に関する啓蒙活動 女性の健康づくり推進 	適正体重者※:70%以上 ※BMI(肥満度)指数:18.5-25.0
働きやすい職場づくり	<ul style="list-style-type: none"> ワークライフバランスの推進 ハラスメント対策の実施 育児・介護支援、男性育休取得推奨 	年次有給休暇取得率:80%以上
人材の確保・育成	<ul style="list-style-type: none"> 新人事制度(役割等級制度)導入 キャリア開発強化 自己啓発支援プログラムの充実 	人材育成に関する社員意識調査 肯定回答率:65%以上
ダイバーシティの推進	<ul style="list-style-type: none"> 女性の活躍推進 外国人留学生の採用 障がい者雇用の推進 	<ul style="list-style-type: none"> 総合職に占める女性比率:13%以上 研究所女性総合職比率:18%以上
公正な取引の推進	<ul style="list-style-type: none"> 公正な取引に関する社内研修会の開催、その他の教育啓蒙活動の実施 コンプライアンス教育啓蒙活動の実施 	<ul style="list-style-type: none"> 独禁法違反ゼロ 外国公務員贈賄ゼロ
サステナブル調達の推進	<ul style="list-style-type: none"> サステナブル調達アンケート結果のフィードバック 当社基準未達サプライヤーへの改善支援 	当社基準未達サプライヤーへの改善支援:90%以上
気候変動への適応	<ul style="list-style-type: none"> 自然災害発生時における事業活動のレジリエンス維持向上 	経常利益50%を占める製品のBCP更新整備

2050年のカーボンニュートラル実現に向け、GHG排出量の削減を中心にレスポンシブル・ケア活動に継続的に取り組む

マテリアリティ要素	主な取り組み	2027年度目標
気候変動の緩和	<ul style="list-style-type: none"> ■ GHG排出量の削減 	GHG排出量: 2018年度比30%削減 (2030年度目標を3年前倒し)
労働安全衛生の推進	<ul style="list-style-type: none"> ■ 労働安全マネジメントの強化 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 休業災害ゼロ ■ 労災件数: 2020年度比半減
生物多様性への取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ■ 生物多様性保全活動の推進 	日産化学本社工場におけるバイオパーク設置・運営
化学物質の管理	<ul style="list-style-type: none"> ■ 化学物質使用に関する法令遵守 	重大法令違反ゼロ継続
産業廃棄物・汚染物質の排出削減	<ul style="list-style-type: none"> ■ 産業廃棄物・汚染物質最終処分量の削減 	日産化学本社工場での最終処分割合削減 (2020年度比)
保安・防災	<ul style="list-style-type: none"> ■ 保安防災マネジメントの強化 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 火災・爆発・外部漏洩ゼロ ■ 保安事故ゼロ

- 2050年のカーボンニュートラル実現に向け、従来の取り組みに加え、生産技術の改善や再生エネルギー導入などに注力する
- 2021年度のGHG排出量は、2020年度比で27千トン-CO₂増加
 (増加要因) ・アンモニア系製品の生産量増加により、製造時のCO₂排出量、天然ガス使用量、電力使用量の増加
 ・硝酸製品の生産量増加により、製造時のN₂O排出量の増加
 ・富山共同自家発電の工事(水力発電供給減少)により、非再生可能電力の使用量増加



■ 他社とのGHG排出量の比較

(千トン-CO₂)

年度	2011	2018	2019	2020	2021
日産化学	448	363	327	318	345
大手総合化学4社平均 (単体ベース)	-	-	5,845	5,581	-

中期経営計画 Vista2027
(2022-2027年度)における取り組み

- 硝酸プラントからのN₂O排出ゼロ
(予定投資額 500百万円 変動費50百万円/年)
- メラミン製造中止
- 小野田工場燃料転換
- ICP本格導入によるGHG排出削減推進
- フロン機器の削減
- 省エネ機器への更新

E

(環境)

2021年4月 ダイバーシティステートメントおよびダイバーシティビジョンを設定

2022年5月 2050年にカーボンニュートラルへ
温室効果ガス(GHG)排出削減長期目標を設定

S

(社会)

2022年6月 メラミン停止によるGHG削減(26千トン、2018年度実績の約7%に相当)

2022年9月 「[統合レポート2022](#)」を発行

G

(ガバナンス)

2019年4月 指名・報酬諮問委員会設置(取締役会の任意の諮問機関)

2019年6月 取締役等を対象に業績連動型株式報酬制度導入(株式給付信託)

2021年6月 女性取締役1名選任(選任後、取締役は計10名、うち社外4名)

2022年6月 役員報酬体系にESG指標を組入れ(基本報酬65%、業績報酬28%、株式報酬7%。
業績報酬28%のうち、利益連動部分90%、ESG連動部分10%)

2022年6月 「[コーポレートガバナンス報告書](#)」を更新(取締役会のスキルマトリックスを含む)

Dow Jones Sustainability Asia Pacific Index

- 2022年12月
5年連続で構成銘柄に選定

Member of
**Dow Jones
Sustainability Indices**
Powered by the S&P Global CSA

FTSE

- 2022年6月 FTSE4Good Index Series、FTSE Blossom Japan Indexの構成銘柄に3年連続選定
- 2022年6月 FTSE Blossom Japan Sector Relative Indexの構成銘柄に選定



FTSE Blossom
Japan Sector
Relative Index



FTSE Blossom
Japan



FTSE4Good

※ FTSE Russell (FTSE International Limited と Frank Russell Companyの登録商標)はここに日産化学株式会社が第三者調査の結果、FTSE Blossom Japan Sector Relative Index組み入れの要件を満たし、本インデックスの構成銘柄となったことを証します。FTSE Blossom Japan Sector Relative Indexはサステナブル投資のファンドや他の金融商品の作成・評価に広く利用されます。

CDP

- 2021年12月
水セキュリティにおいて「Aリスト」
に3年連続選定



健康経営優良法人 -ホワイト500-

- 2022年3月
6年連続認定



S&P/JPX カーボン・エフィシエント指数

- 2022年3月
4年連続で構成銘柄に選定



MSCI 日本株女性活躍指数 (WIN)

- 2022年6月 構成銘柄に選定

2022 CONSTITUENT MSCI日本株 女性活躍指数 (WIN)

※ MSCI指数への日産化学株式会社の組み入れ、および本ページにおけるMSCIロゴ、商標、サービスマーク、または指数名称の使用は、MSCIまたはその関係会社による日産化学株式会社の後援、保証、または販売促進ではありません。MSCI指数は、MSCIの独占的財産です。MSCIおよびMSCI指数の名称とロゴは、MSCIまたはその関係会社の商標またはサービスマークです。

気候関連財務情報開示タスクフォース (TCFD)

- 2020年8月に賛同表明



東京証券取引所「企業価値向上表彰」

- 2020年1月
表彰候補50社に2年連続選定

証券アナリスト協会「2022年度ディスクロージャー優良企業」

- 化学・繊維部門 第2位(2020年度第1位、2021年度第3位)

東京証券取引所 第8回(2019年度)企業価値向上表彰候補に選定

- 東京証券取引所が選ぶ「企業価値向上表彰※」の表彰候補として、2018年度に続き2年連続で、約3,600社中の50社に選定された。

※2020年度は新型コロナウイルスの影響で表彰実施見送り

※東証に上場する企業のうち、資本コストやROEなど投資者の視点を強く意識した経営を実践し、高い企業価値の向上を実現している会社を表彰する制度

詳細: <https://www.jpx.co.jp/equities/listed-co/award/01.html> 

Institutional Investor “2022 All-Japan Executive Team Rankings”

化学セクター

- 総合ベストCFO 第2位 宮崎(前副社長、CFO)
- 総合ベストIR Programs 第2位
- ESG Rankings 第3位

全セクター

- Most Honored Company受賞(4年連続)

IR/サステナビリティホームページ

- 日興IR「2021年度ホームページ充実度ランキング」 最優秀サイト受賞(4年連続)
- 大和IR「2022年インターネットIR表彰」 優良賞受賞(4回目)
同サステナビリティ部門 優秀賞受賞(2年連続)
- ブロードバンドセキュリティ「Gomez IRサイトランキング2021」 銀賞受賞(4年連続)
- ブロードバンドセキュリティ「Gomez ESGサイトランキング2022」 優秀企業受賞(2年連続)

(参考)会計方針の変更(2021年度～)

1. 方針の変更 「収益認識に関する会計基準(企業会計基準29号)」を適用
2. 適用時期 2021年4月1日より
3. 方針変更に伴うPL、BSへの主な影響

2021年度のPLへの影響額(前年同期比) (億円)

	2021実績						
	1Q	2Q	上期	3Q	4Q	下期	年間
売上高の増減※1	-35	-74	-109	-17	-103	-120	-229
営業利益の増減※2	+12	-21	-9	+40	-32	+8	-1

※1 (1)代理人取引、(2)売上高を基礎としたロイヤリティ収入、(3)変動対価、の影響合計

※2 (2)売上高を基礎としたロイヤリティ収入、(3)変動対価、の影響合計

(1) 代理人取引

主たる適用セグメント	化学品、農業化学品、卸売
適用後	売上総利益額見合の売上高のみ表示(適用前は売上高、売上原価を総額で表示)
2021年度PLへの影響額	<ul style="list-style-type: none"> ■ 売上高、売上原価がそれぞれ228億円減少、営業利益には影響せず ■ 各セグメントの売上高には影響させず、「調整額」で控除

(2) 売上高を基礎としたロイヤリティ収入

主たる適用セグメント	農業化学品(動物薬ロイヤリティ収入)
適用前(2020年度まで)	MSD社※ 1-6月売上高見合を8月、7-12月売上高見合を翌年2月に計上
適用後(2021年度より)	MSD社※ 1-3月売上高見合を5月、4-6月売上高見合を8月、7-9月売上高見合を11月、10-12月売上高見合を翌年2月に計上

※ MSD社:米国メルク社のアニマルヘルス事業部門のMSD Animal Health 社の略称

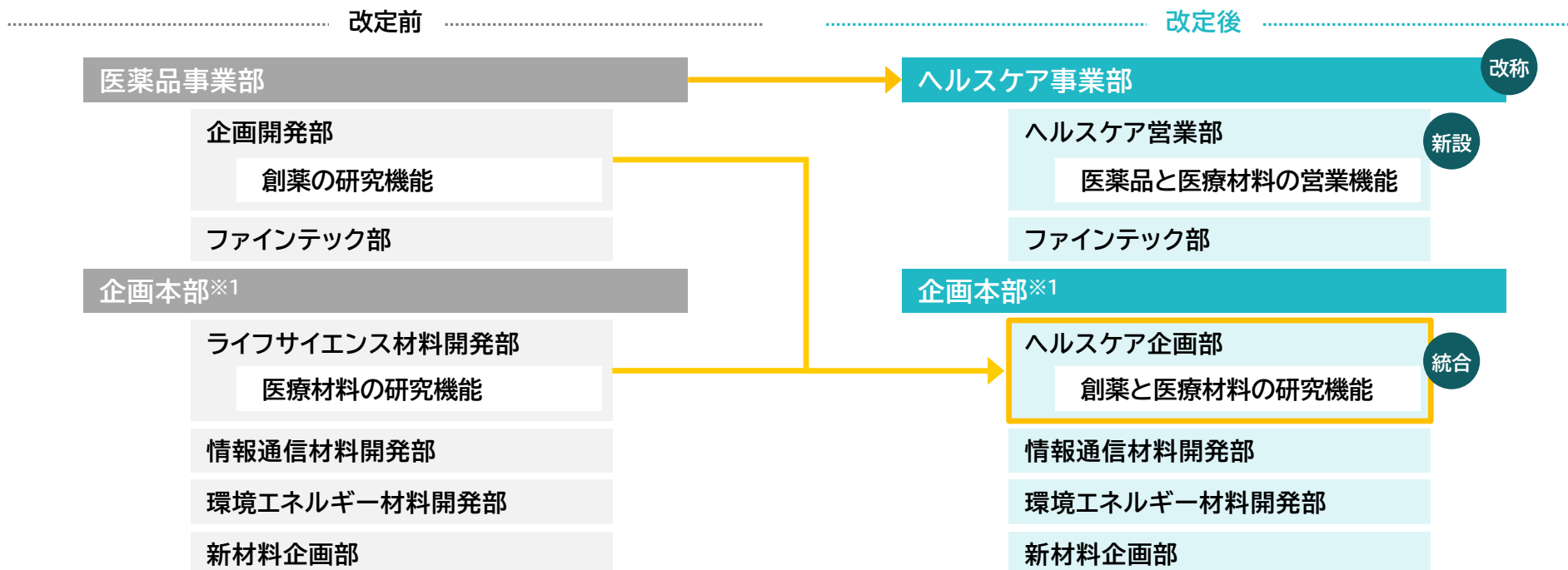
(3) 変動対価(販売時点では変動する可能性のある売上値引など)

主たる適用セグメント	農業化学品
適用後	<ul style="list-style-type: none"> ■ 売上期間に応じて見積もり計上(適用前は金額確定時に計上) ■ 適用前に比べ、値引額は1Q増加(マイナス影響)、2Q減少、上期増加、下期減少、年間ほぼなし、の傾向
2021年度BSへの影響額	2021年度期首利益剰余金(BS項目)が2020年度の遡及修正で15億円減少(税効果反映後)
適用前(2020年度)	2020農年(2019年10月-2020年9月)の売上見合い値引きのみ計上
適用後(2020年度)	上記に加え、2020年10月-2021年3月の売上見合い値引き15億円追加計上

事業環境の変化を適切にとらえながら中長期的な成長を実現していくため、2022年4月1日付で以下の組織改定を実施

医薬品事業部および企画本部※1ライフサイエンス材料開発部の組織改定

目的 創薬・医療材料の機能統合(研究機能を企画本部※1。営業機能をヘルスケア事業部)



※1 企画本部は、セグメントでは「調整額」に含まれる。

http://www.nissanchem.co.jp/ir_info/index.html

- ・IR新着情報
- ・個人投資家の皆様へ
- ・経営方針
- ・業績・財務
- ・株式情報
- ・IRカレンダー
- ・株価情報
- ・最新資料ダウンロード
などを掲載しています



The screenshot shows the IR information page of Nissan Chemical. At the top, there is a navigation bar with 'IR情報' highlighted. Below it, a 'IR新着情報' section lists recent updates such as '2023年3月期 第1四半期 決算説明音声配信' and '2022年11月11日 (金) 15:00' IR calendar events. A '株主・投資家の皆様へ' section provides links for investors and shareholders. The 'IR資料室' section offers various documents like '決算説明資料' and '株主通信'. A '最新資料ダウンロード' section lists downloadable reports. At the bottom, there is a prominent blue button labeled 'IRメール配信のご登録' (Register for IR email distribution).

IRに関する最新情報について、
メールでお知らせします。
ぜひご登録ください。

<https://www.nissanchem.co.jp/mail/index.html>

(参考)主要製品用途一覧

セグメント		製品名	主用途	
化学品	ファインケミカル	テピック	エポキシ樹脂: ソルダーレジストインク材料、LED封止材材料、粉体塗料硬化剤	
		メラミンシアヌレート	難燃剤	
		ハイライト	塩素化イソシアヌル酸: プール、浄化槽用殺菌消毒剤	
		ファインオキシコール	化粧品原料、潤滑油原料、電子材料用接着剤原料	
	基礎化学品	メラミン	合板用接着剤	
		アドブルー [®]	ディーゼル車排ガス浄化用高品位尿素水	
		高純度硫酸	半導体用洗浄剤	
		アンモニア、硫酸、硝酸、尿素		
	機能性材料	電子材料	サンエバー	液晶配向材用ポリイミド
			ARC [®] (KrF、ArF)	半導体用反射防止コーティング材
OptiStack [®] (多層材料)			半導体用多層プロセス材料(Si-HM、SOC)	
OPTIFOCUS			イメージセンサー用マイクロレンズ材料	
エルソース			有機EL用塗布型ホール注入材	
無機コロイド		スノーテックス	コロイダルシリカ: 研磨材(シリコンウェハー、化合物半導体、半導体CMP等)、特殊鋼板	
		オルガノゾル・モノマーゾル	有機溶媒・モノマー分散シリカゾル: フィルム表面処理、電子機器、樹脂添加剤	
		アルミナゾル	自動車用触媒、電子機器	
		サンコロイド	眼鏡レンズ用高屈折率ゾル	
		セルナックス	フィルム用帯電防止	
		オイル&ガス材料	シェールオイル・ガス採掘効率向上材	

※ アドブルー[®]はドイツ自動車工業会(VDA)の登録商標 ※ ARC[®]およびOptiStack[®]はBrewer Science, Inc. の登録商標

(参考)主要製品用途一覧

セグメント		製品名	主用途
農業化学品	除草剤	タルガ	大豆、なたね、てんさい
		パーミット	とうもろこし、さとうきび、稲
		シリウス	稲
		ラウンドアップ	非選択性茎葉処理除草剤： 非農耕地、果樹園
		アルテア	稲
	殺虫剤	サンマイル、マイルコーネ、スターマイル	果樹、かんきつ、茶、野菜
		グレーシア	野菜、茶
	殺菌剤	パルサー、イカルガ、グレートム (チフルザミド)	ばれいしょ、稲、芝
		ライメイ	ばれいしょ、野菜、ブドウ
		クインテック(キノキシフェン)	果樹、野菜
		ダイセン(マンゼブ)	果樹、野菜
	動物医薬品	フルララネル	ペット用外部寄生虫薬ブラバクト、鶏用ワクモ駆除剤EXZOLT原薬
	ヘルスケア	リバロ原薬	高コレステロール血症治療薬
		ファインテック	課題解決型受託事業およびジェネリック製品開発

本資料に記載されている将来の当社事業に関する見通しは、資料作成時点で入手可能な情報に基づいて当社が判断したものであり、将来の当社業績を保証するものではありません。様々な不確実要素により、実際の業績は予測と大きく異なる結果になる可能性があります。

また、本資料は投資勧誘を目的としたものではありません。投資に関する決定は、利用者ご自身のご判断で行われるようお願いいたします。

本決算説明資料に掲載されている全てのコンテンツは、日産化学株式会社が所有しています。
